

地下化を求める陳情は「継続」に



上石神井駅西側踏切付近

こんな予定で進めています。こうした時に都議会が「継続審査」の判断をしたことは、住民の意志を尊重したものではありません。都も無視することはありません。

こうした時

都は年度内に都市計画案の策定をあ

重たい「継続」の結果

これに対し地元住民の陳情は、高架方式を地下方式にあらため、騒音軽減やまちの住環境を改善し、立ち退きなど地域負担を減らして欲しいというものです。

日本共産党都議団は陳情者の願意をくんで、趣旨採択を主張しました。

都議会では第三回定例会で「西武新宿線井荻・西武柳沢間連続立体交差事業」の陳情審査が行われました。都は高架方式で連続立体事業を行い、19カ所の踏切解消をはかるとして計画素案を発表しています。

日本共産党都議団は
「趣旨採択」を主張

立体化完成まで 時間がかかるのはどちらか？

高架 地下

「踏切の解消を早く」これは住民のみなさん誰もが望む悲願です。都の示している素案はこの願いに応えているでしょうか。

最初から高架ありき？

都議会の質疑では疑問点が浮きぼりになりました。構造形式は、事業主体の東京都が決定するとなっていますが、実態は西武がコンサルタントに委託して原案を作り、都が後で点検・承認する形です。

高架案に決めた最大の理由は、単線シールド工法での地下方式が多額の費用がかかるからとしていますが、新たな用地買収が少なく、費用も縮小できる複線シールドが調査から除外されているのは、最初から高架ありきを示すものと言われても仕方ありません。

横浜市相模鉄道では、地下方式が採用されました。検

討では、①環境（日影、騒音等、地下水、景観）②地元要望③事業費④まちづくりの項目で比較し約150億円高いが、環境やまちの自由度が高いと地下化が優位と判断されたからです。この判断項目を何故参考にしないのか疑問です。

工期は充分検討されたのか？

とりわけ工期は大変大事です。素案では、地下化は16年、高架化は15年としています。用地取得や借地が4倍もある高架の方が何故工期が短いのでしょうか。

先の横浜市では工期が高架で18年、地下で11年としています。これは、高架、地下それぞれでかかった近年の実際のケースをもとに算出したものです。

「踏切解消」を本当に早くするために、住民が納得と協力できる工法を、再検討すべきではないでしょうか。

区民の声を都政に届ける

ご意見・ご要望をお寄せください。

とや 英津子

日本共産党都議会議員
ニュースレター

練馬区桜台1の6の11 電話：03-6324-8060 fax：03-3948-0153
●HP/Twitter/Facebookは「とや英津子」で検索下さい。

2020年1月

都議会 文教委員、オリ・パラ対策特別委員会委員など



西武新宿線の連続立体化予定のまちを歩いて

現地調査レポート

日本共産党都議会議員
とや英津子



沿線のマンションへ

9月末、現地が実際にどうなっているのか、高架化が相応しいとする東京都や練馬区の説明の妥当性などを確認するため、地元の有馬区議、地域のみなさんと調査にでかけました。

マンションの管理組合として対策委員会をつくり、高架化による立ち退きによる様々な影響を抱える方々ともお会いしました。

実際に高架になった場合どの程度影響があるのかメジャーで測り、改めて非常識な計画を確認。



マンションなど、沿線の調査を行なう、とや都議と有馬区議（9月28日）



東伏見駅西側のアンダーパスの現地調査を行なう、とや都議、有馬区議と住民。

不可思議な車両基地東側の買収

上石神井駅の車両基地。高架化案では、約3万m²のうち3分の2は他の場所へ移転し、約1万m²を残すとしています。ところが、現在の土地を活用するのではなく基地の形を変え、新たに土地を買収する計画です。そうなれば住民は立ち退きを迫られます。自社用地を活用すべきではないでしょうか。



上石神井駅の車両基地付近の調査を行なう、とや都議と住民（9月28日）

東伏見のアンダーパスへ

東京都が地下化できない理由の一つとしているのが東伏見のアンダーパス通路の存続です。現地で保谷清子西東京市議と合流して視察しました。

地下にした場合、地上にあがってくる地点がちょうど東伏見駅から数百メートル先にあるアンダーパスにかかり、つぶすことになるからと言います。

現地をみると確かに車一台分が通るだけの幅は確保してある道が線路の下にありました。しかし、代替道路を通すことは可能だし、なぜこれが高架の理由なのか、都の説明に疑問が沸いてきます。

■とや英津子のかけ歩き■

11月23日、関区民ホールで行われた「西武新宿線立体化を考える集会」に原田都議とともに参加し、都の「素案」の報告と問題点を指摘しました。

雨にもかかわらず80人を超える方々が集まりました。みなさんが真剣に自分たちのまちの姿を考え、東京都の計画素案を分析し、積極的な提案をされていることに胸を打たれました。

「素案」は現地調査や住民のみなさんからいただいた資料を読み込む中で、かなり問題があり、充分検討されたものではないと思います。

中野、杉並、練馬、西東京市と自治体をまたいで行われた画期的な集会を契機に、地元住民の声を反映した計画にできるようみなさんと力を合わせます。